

みずから笑う

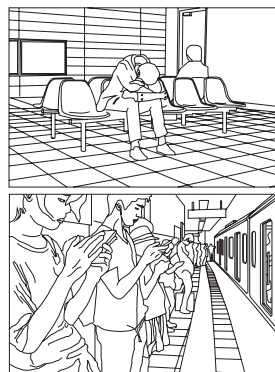
—都市の窮屈さに対して、水との営みを通して、修行、ほっとする—

井戸と笑い



STEP 1 昔の井戸

古来から水は人々の生活に関連している。井戸は、昔の人々が地下資源を手入手するために作られた施設である。それは資源を得る手段に留まらず、人間が労働を通じて自然、他人との交流する空間でも考えられる。



STEP 2 笑いづらい今

現代施設の出現に伴い、人間が資源を得るためにかかる時間が短くなった。しかし、その一方で、ネガティブな精神的問題が私たちの生活に生じていた。例えば、社会的な孤独感や快適な生活に適応できないことである。これにより、人々は少しずつ笑いづらくなっていた。

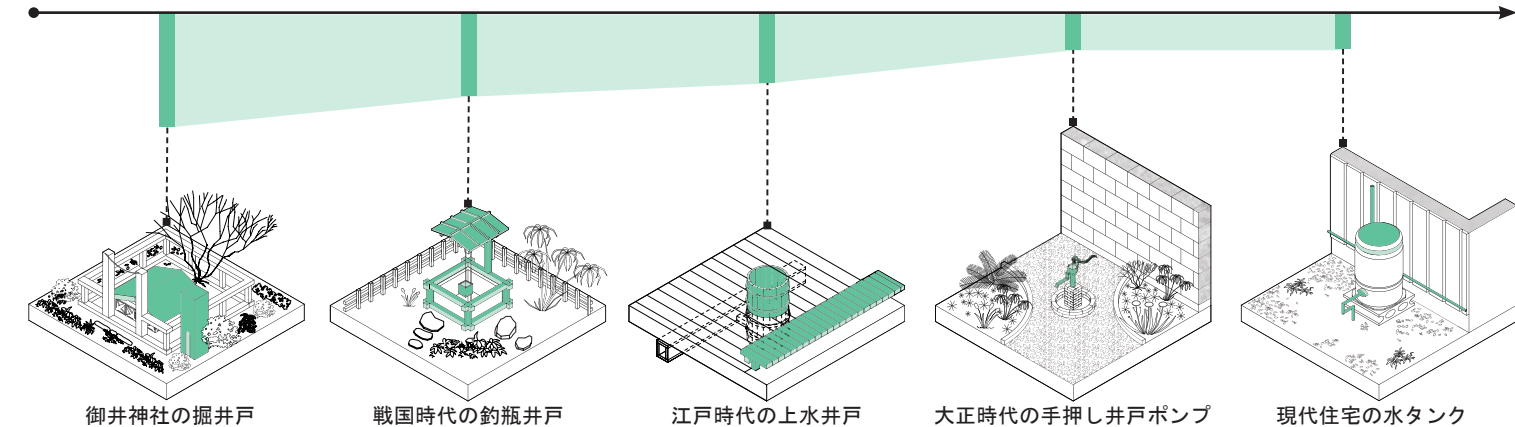


STEP 3 苦労後の笑い

今の社会では、井戸で水を汲み上げるような行為は私たちの生活から徐々に姿を消していった。実際には、この修行のような行動では、水を得るプロセスだけではなく、私たちはその過程で精神的なストレスを解消していくこともある。

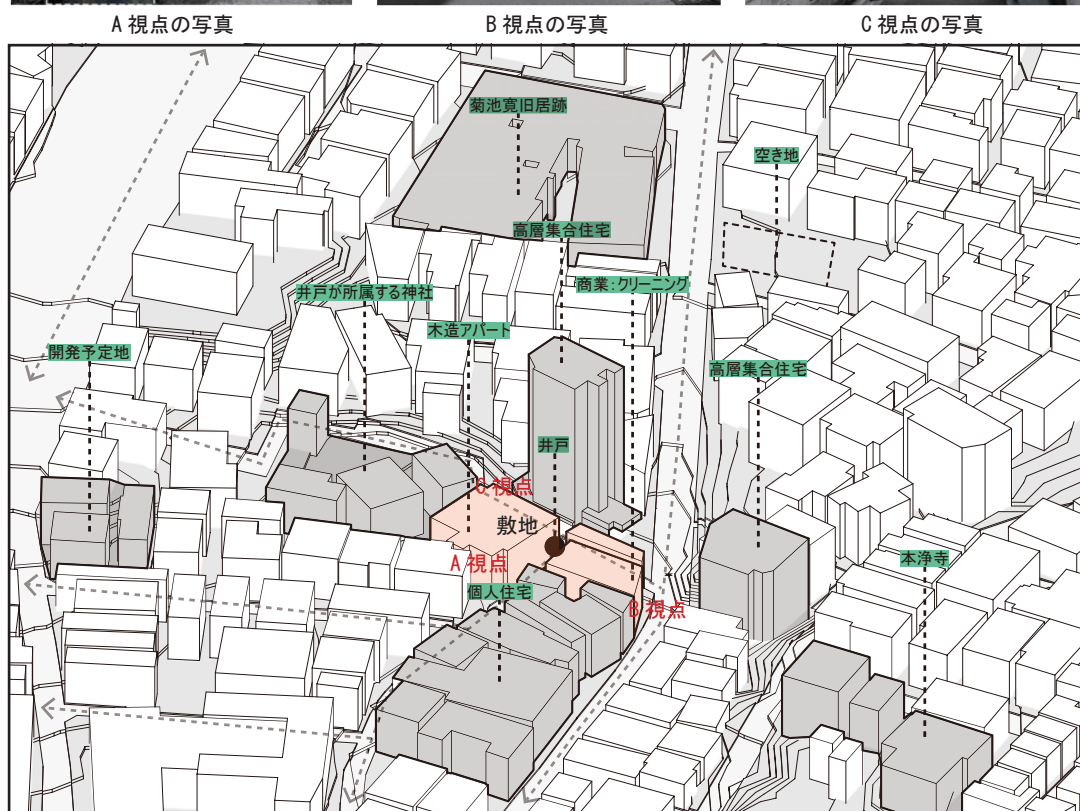
井戸の歴史

技術の発展により、人間が水を得るためにかかる時間が短くなった

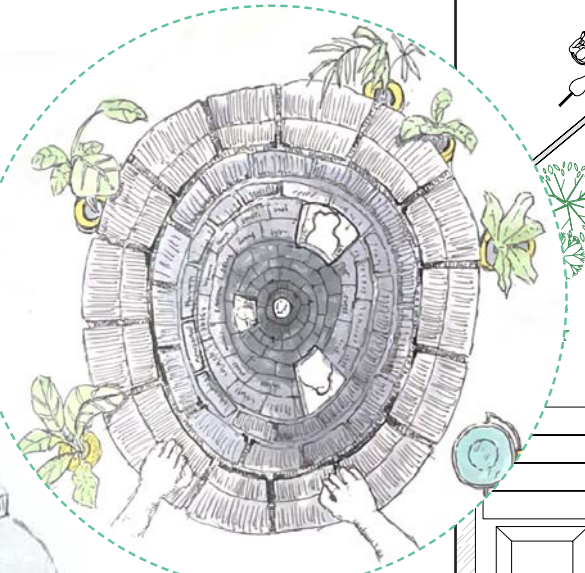
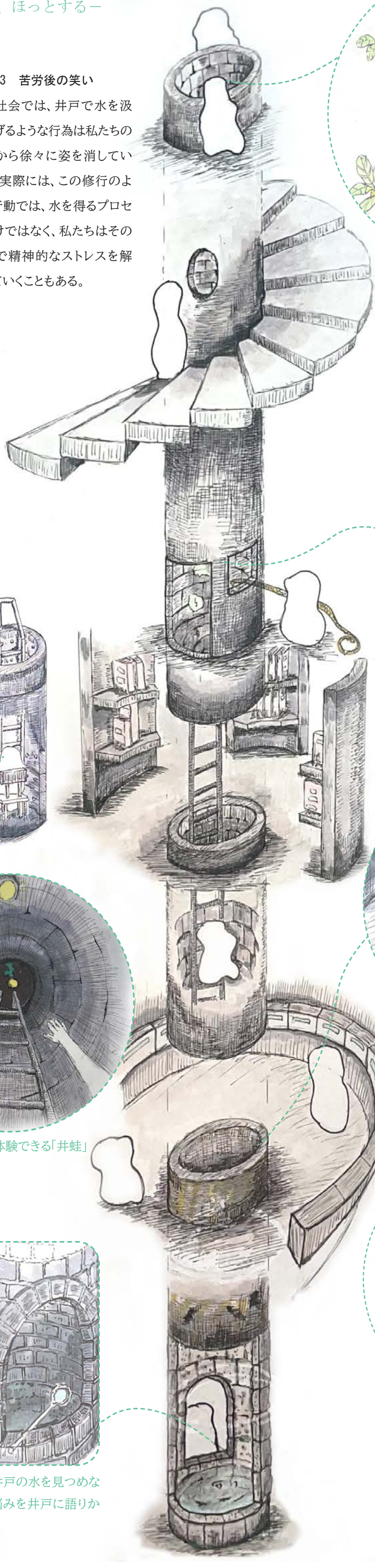
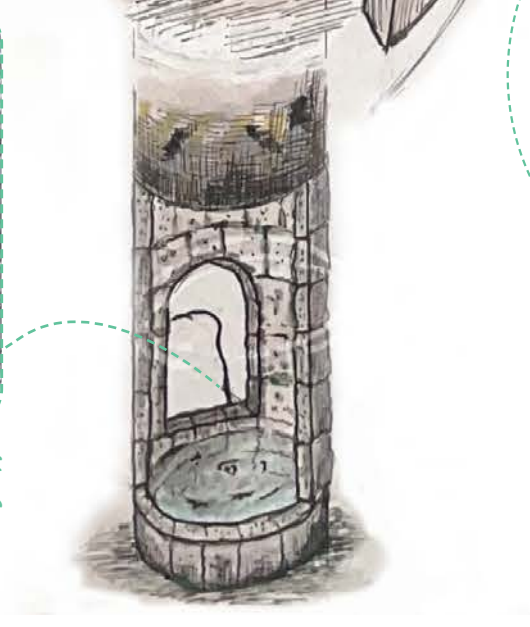
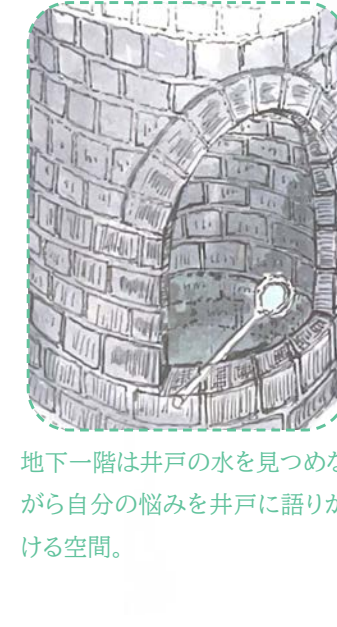


科学技術の発展により、生活の中でフィジカルがかかる時間が短くなったが、その便利さを得た代償として、私たちのメンタルのストレスが増えしまった。なぜなら、そのストレスを発散できる行動が失われたからである。従って、今回の提案については、「井戸」という要素を集合住宅に取り入れ、都市社会の中で水から笑える家考えた。

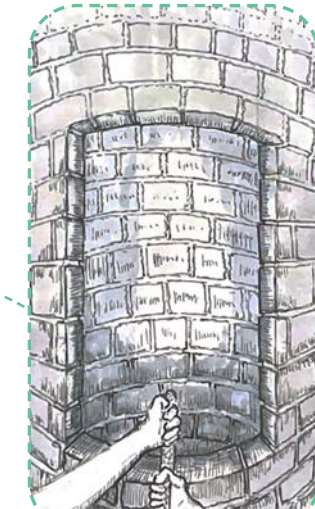
護国寺駅の弦巻川 自噴井戸



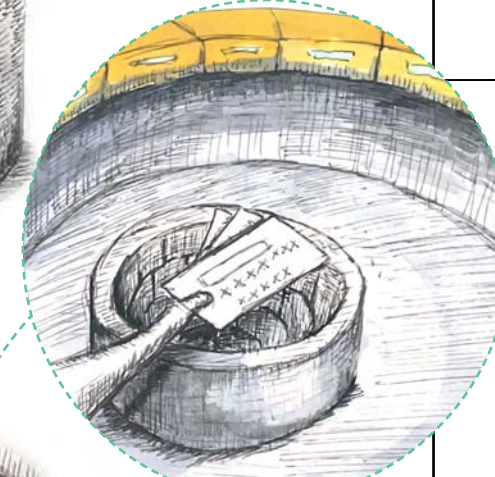
選んだ敷地は文京区護国寺駅に位置する「弦巻川 自噴井戸」である。由来は、井戸の位置する場所は低地であるため、弦巻川から流れ出た水は、井戸から絶え間なく湧き出してくることである。この周辺には多くの学校やオフィスがあり、木密地域の住宅地に属するので、地域の群集は、主に学生、サラリーマン、および高齢者で構成されている。そして、この地域は不燃化政策の推進やまちづくりの開発に向かっている。上記の社会的な背景に基づき、今回の提案は都市の若者へ向けて、ストレスを解消することのできる集合住宅を設計するべきであると考えた。



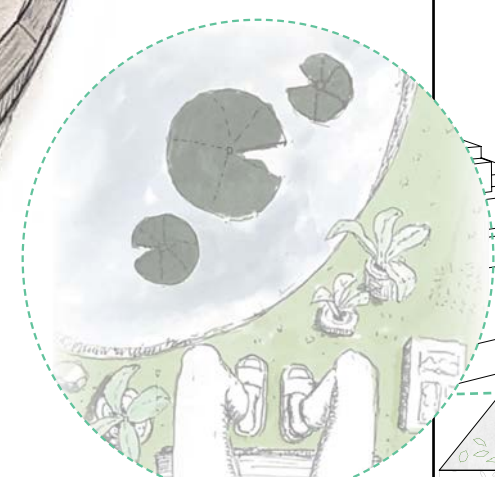
屋上から井戸内部を見ると、各部屋につながる窓を通じて建物内に存在するコミュニティを感じることができる。



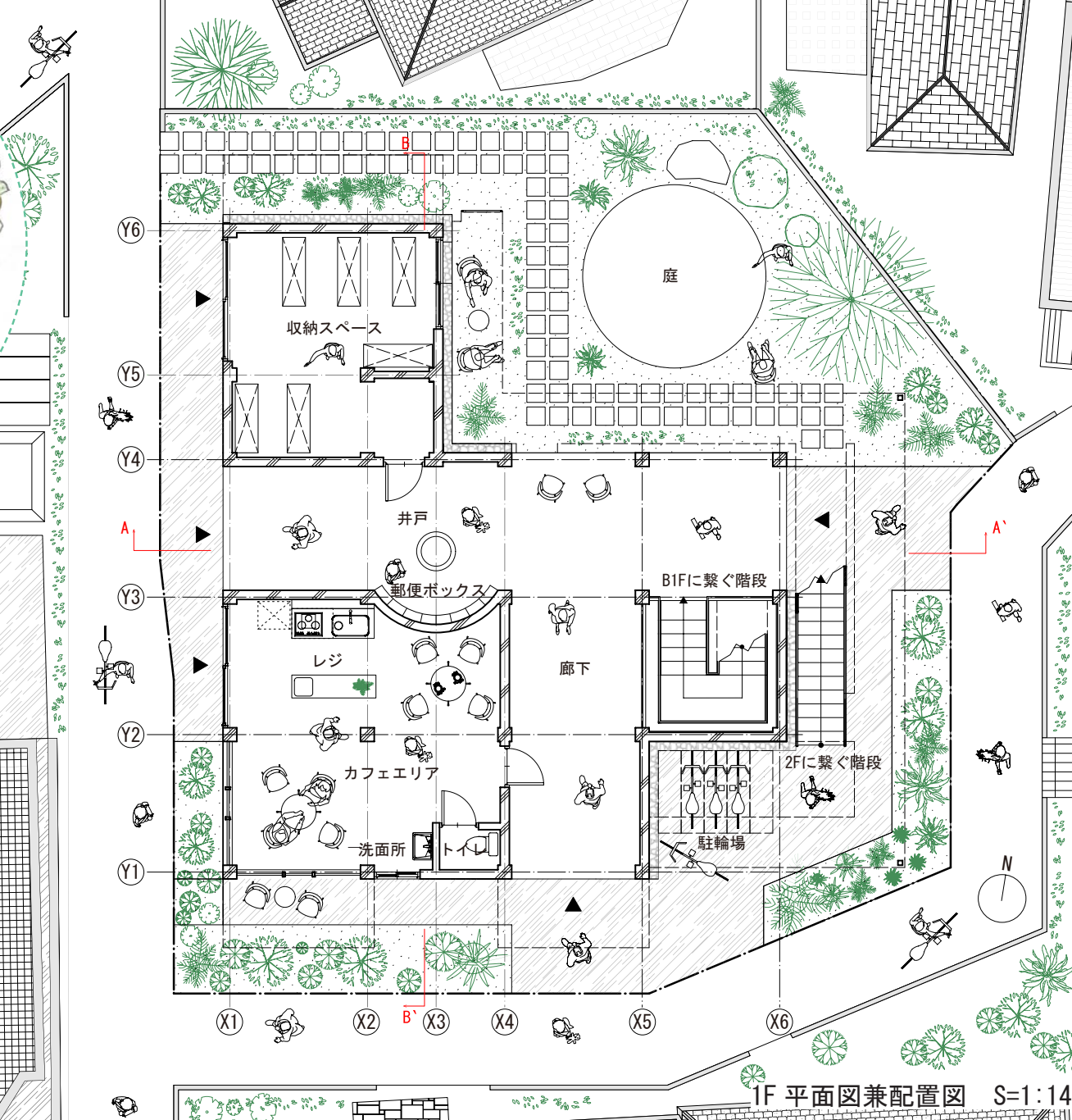
各住戸の部屋には井戸へ通じる窓がある。この窓を通じ、部屋から水をくみ上げることができる



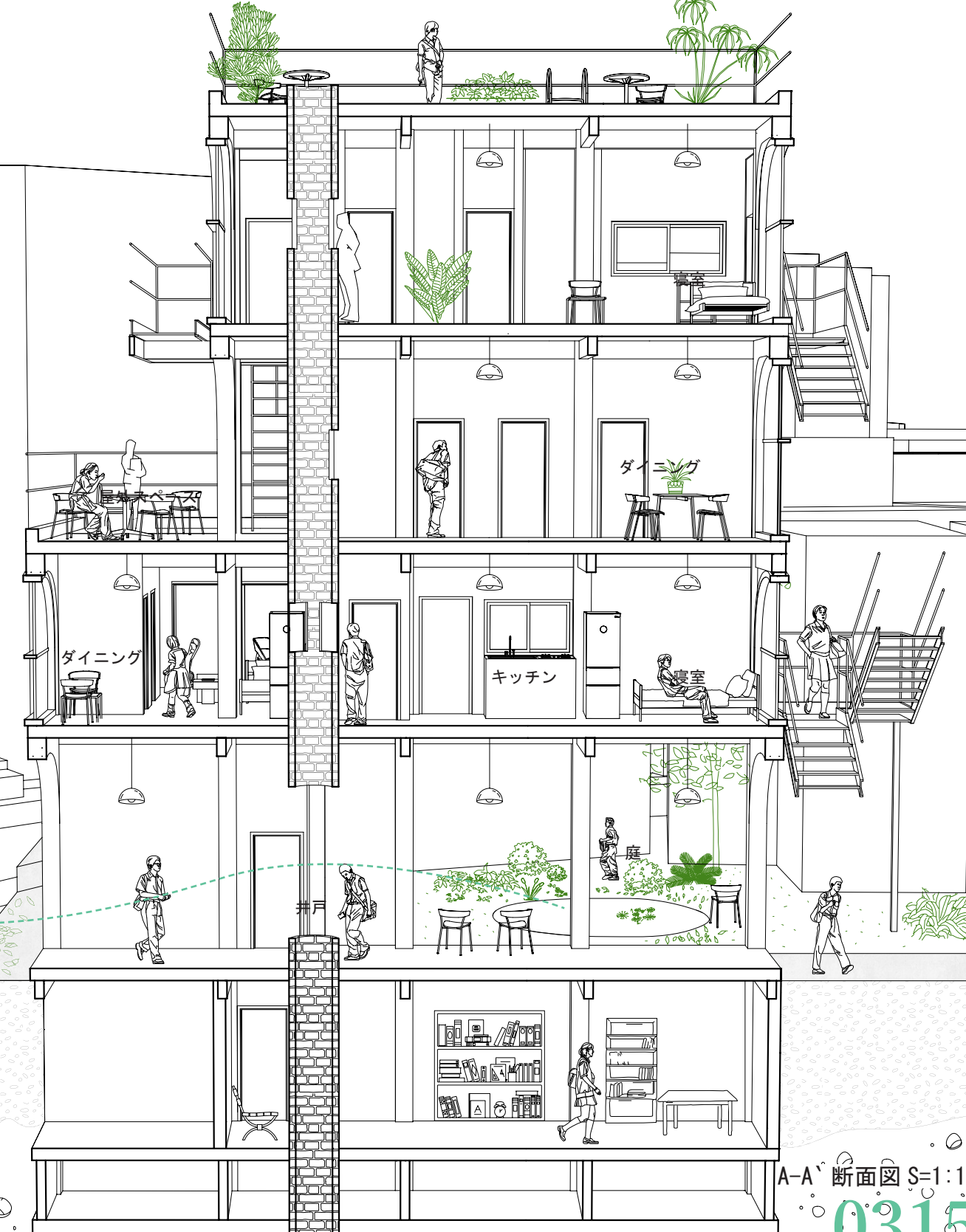
一階の井戸の周辺に郵便ボックスがあり、住民はここで手紙を受け取る際に互いに挨拶をする。



自噴井の特性に基づいて、暗渠の水を地上に導き、水池のある庭に組み込む。



1F 平面図兼配置図 S=1:140



A-A' 断面図 S=1:100